

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



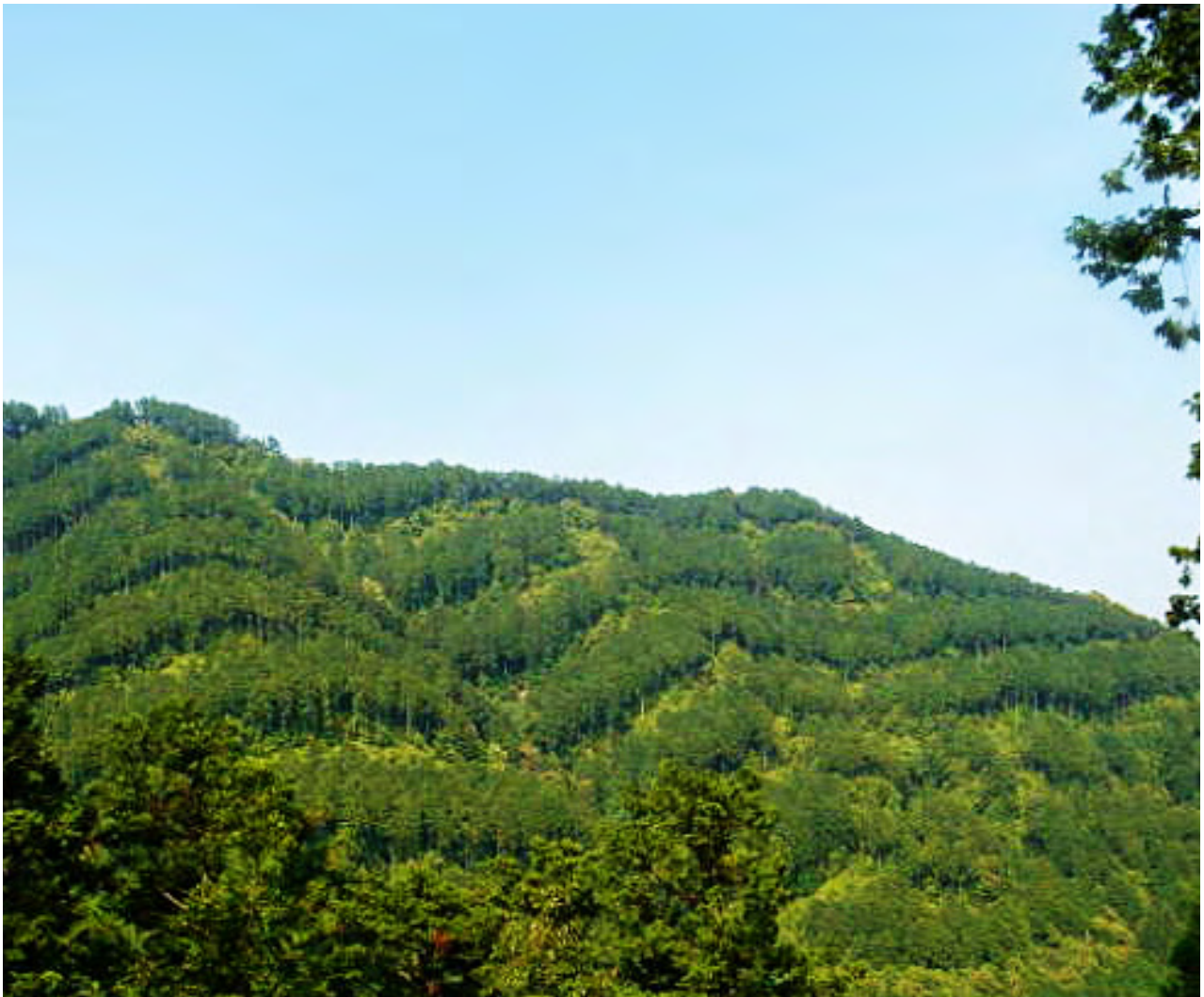
四国山の日

No.1070 2009年5月号

「美しい森林づくり」の推進

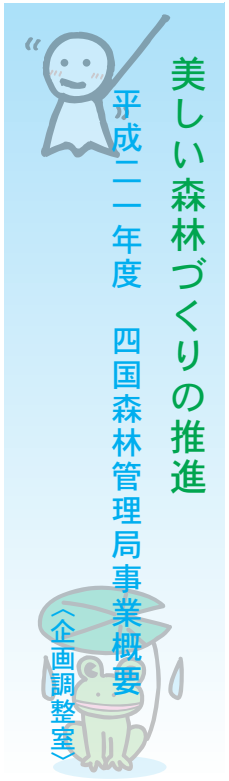
四国森林管理局においては、国民の森林に対する多様なニーズに応えるため、「美しい森林づくり」を推進し、民有林・国有林の連携のもと、「100年先を見通した森林づくり」をはじめ5つの柱に沿って、国民目線に立った事業展開を図ることとしています。

【詳細は2頁に掲載】



100年先を見通した森林づくり（複層林）

〔高知県四万十市〕



四月二十四日に記者発表を行いましたので平成二十一年度四国森林管理局事業概要について紹介します。



マスコミ各社への記者発表

国土の保全や水源のかん養に加え、近年地球温暖化防止や生物多様性の保全への関心が高まるなど、森林に対する国民への期待が多様化しています。

また、京都議定書の第一約束期間（平成二〇年～平成二四年）における、我が国の温室効果ガス削減目標の達成

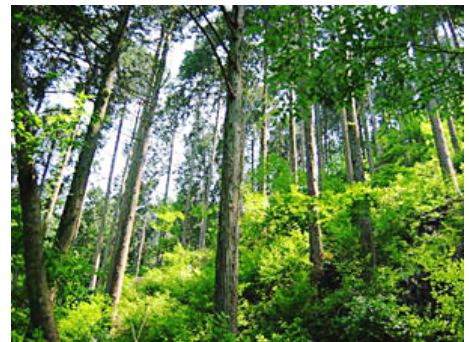
に向けて、森林吸収源対策を着実に進めていくことが大切です。

このため、四国森林管理局においては、森林に対する多様なニーズに応えつつ、「美しい森林づくり」を推進し、民有林・国有林の連携のもと、五つの柱に沿って、国民目線に立った事業展開を図ることとしています。

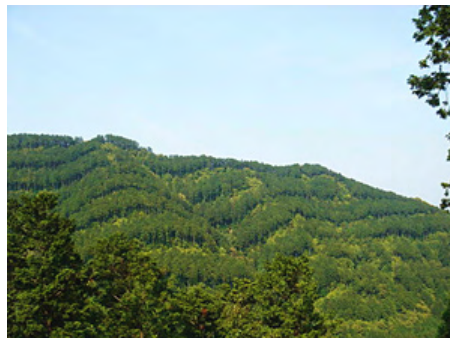
一、一〇〇年先を見通した森林づくり

森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、地域の特徴やニーズに応じ、五〇年サイクルで植栽・伐採を繰り返す従来の森林づくりに加え、一〇〇年先を見据えた、針広混交林や複層林等の多様な森林を目指した森林整備とともに、生物多様性の保全に向けた取組を行います。

① 公益的機能発揮のための森林施業の推進



ヒノキ人工展示林



複層林

四国の国有林野は、奥地山岳地域にあり、水源のかん養や国土保全をはじめとする公益的機能の発揮が高く求められる森林が大部分を占めています。このため、公益林（水土の保全や自然環境の維持等を目的に施業を行う森林）を段階的に拡大

しており、四国の国有林野面積のうち公益林の割合は平成一〇年の三〇%から平成二一年には九四%となっています。平成二一年度も公益的機能の発揮に向けた森林施業を行い、「美しい森林づくり」を推進します。



間伐により整備された森林

② 森林吸収源対策に向けた森林整備の推進

四国の国有林には、人工林が約一二万ヘクタールあります。この人工林の森林整備については、これまでも早急に整備が必要な箇所から優先的に現地の林分状況等を踏まえ計画的に実施して参りました。

京都議定書の削減目標の達成に向けては、吸収源としてカウントできる森林（平成二年以降に森林整備等を行った森林）を効率的かつ確実に増やすことが重要であり、平成二一年度には、約五、九〇〇ヘクタールの除

伐・保育間伐等を行います。今後も個々の森林の状況、施業履歴をチェックしながら効率的に森林整備を進め、着実な森林吸収量の確保に努めます。

③ 生物多様性の保全に向けた取組 保護林候補地の選定適否等についての調査 平成一五年三月に野生動物の生息・生育地の拡大と相互交流を促すことを目的に「四国山地緑の回廊」を設定しました。

平成二一年度については、^{うわがなる} 鎗戸国有林（徳島県）、^{うわがなる} 上ヶ成山国有林（愛媛県）、グドウジ谷国有林（高知県）において、保護林（原生的な森林生態系からなる自然環境



の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、施業及び管理技術の発展等に資することを目的として、区域を定め、禁伐等の管理経営を行うことにより、保護を図っている国有林野」として選定するのにふさわしいかどうかの調査を実施し、将来的には保護林と保護林をつなぐ「緑の回廊」まで見据えた保護林の拡充に向けた検討を行います。

④ 生物多様性の保全に向けた取組「四国山地緑の回廊」モニタリング調査(クマタカ等猛禽類生息調査の追加)「四国山地緑の回廊」については、設定後以降にニホンジカの食害や、ツキノワグマの確認など取り巻く環境が著しく変化したことから、平成二〇年度に「四国山地緑の回廊あり方検討委員会」を設置し、今後の回廊のあり方の方角について取りまとめました。この中では、「人と野生鳥獣との共存に向けた取組」の推進とともに、飛翔が確認されている国内希少野生動物種のクマタカの生息調査を追加し、その結果を踏まえた対策について検討すべきという方向が示



ラス巻き

されたことから、平成二二年度は、平成一五年度から実施しているモニタリング調査に、クマタカの生息調査項目を追加して実施します。

⑤ 人と野生鳥獣との共存に向けた取組
ニホンジカをはじめ野生鳥獣による農林水産業被害の深刻化を踏まえ、被害地



モニタリング調査で撮影されたクマタカ

域を含めた森林生態系の再生・保全及びニホンジカの生息地の保護を図るため、(1)ニホンジカの生息環境調査及び動態調査、(2)関係機関との連絡会議の開催、(3)被害跡地の再生対策、(4)野生鳥獣の生息環境整備を実施し、人と野生鳥獣との共存を目指した森林づくりに取り組みます。

二、流域の保全と災害による被害の軽減

流域全体の保全のための治山対策を、民有林治山事業等と連携することにより効果的に推進し、災害を防ぐことに加え、被害の軽減(減災)に向けた取組を推進します。具体的には

① 重要自然維持地域保安林整備事業について

白髪山(一四七〇m：嶺北森林管理署管内)周辺の国有林は、県立自然公園及び保護林に指定され、登山、林内散策、学術研究等の目的で県内外からの入山者が多い地域です。近年の集中豪雨により、白髪山東部の口白髪山において、地すべり性崩壊や溪流荒廃が発生し、不安定土砂が溪流内に



残存型桧治山ダム工

堆積している状況にあり、早急に整備していく必要があることから、今後五年間、総工事費約三億円の規模で治山ダム工や森林整備等の事業を実施します。

② 治山事業における間伐材等木材利用の推進
地球温暖化防止対策の観点から、公共土木工事における木材利用の拡大を推進しています。四国森林管理局では、今後五年間で、平成二〇年度の実績(約二、五〇〇立方メートル)の二倍程度まで木材利用を増加することを目標としており、平成二二年度については、三、〇〇〇立方メートルの木材利用に取り組みでいきます。

三、様々なニーズに応えた森林づくりと利用

森林の有する多面的機能や木材利用の意義に対する理解と関心を高めるため、森林環境教育の機会や、活動フィールドを広く提供し、国民参加の森林づくりを推進します。具体的には

① 「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 四国



平成20年度「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 九州の様子



シンポジウム

② 「美しい森林づくり、地域づくりを目指して」～国有林公開講座の実施～
 国有林への国民の期待が高まる中、「国民の森林」として、国民に具体的な成果を示す取組を着実に実行していくことが求められています。このため四国森林管理局では、国民と国有林との双方の情報・意見の交換を目的とした「四国の国有林公開講座」を実施します。



森の中での体験活動の様子

③ 森林・林業体験交流促進対策
 都市部等の小学生を対象とした自然体験の機会を提供するため「工石山」(嶺北森林管理署管内)、「飯の山」(香川森林管理事務所管内)において、安全で効果的な学習・体験活動を行うための学習教育林の全体構想及び学習・体験プログラムを作成し、学習コース等の整備を実施します。また、四万十川森林環境保全ふれあいセンターが森林環境教育を実施しているファイルドに説明看板、樹名板、道標等の整備を行います。

① 国有林材の安定供給
 平成一九年度に設立された「木材安定供給協議会」において、国有林からの原木供給可能量の見通し等の情報を提供するとともに、民有林材の供給に係る情報や川下の需要動向に係る情

④ 「森林の達人集」の拡充について
 森林環境教育の実践に当たっては、従来の森林教室や植物観察にとどまらず、「生きる力」を育む多様なプログラムが求められています。四国森林管理局では平成二〇年度、枝や葉など自然の材料を用いた遊び、森林をフィールドとした活動を得意とする名人達を「森林の達人集」(高知県版、徳島県版)としてデータベース化し、四国森林管理局のホームページに掲載しました。

四、国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生



② 地域材利用促進に向けた取組について
 間伐材等が地域(四国)材の利用促進を図るためには、生産された材を需要者へ安定的に供給するとともに、木の良さを一般消費者へPRするなどの取組が重要となっています。四国森林管理局では民有林と連携し地域

平成二一年度は、香川県版、愛媛県版の「森林の達人集」を作成して、それぞれの達人の持つノウハウ等を広く国民に情報発信し、効果的な森林環境教育を推進します。



平成20年度「四国山の日 in こうち」の様子

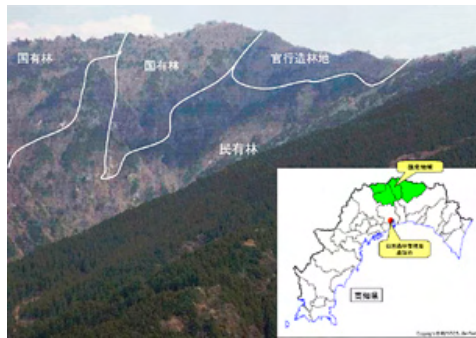
① 「四国山の日」〜新・四国の森林づくり推進事業〜
平成一六年一月に四国四県と四国森林管理局による「四国の森づくりに関する

五、国有林と民有林の連携の強化
民有林と一体となった森林整備、木材の安定供給、国有林を活用した技術研修や森林環境教育を行うことにより、「美しい森林づくり」を推進します。
具体的には

② 民有林との森林整備協定の推進
高知県嶺北地域の民有林と国有林との間で、効率的かつ効果的な作業路網の構築による間伐の推進等を目的とした森林整備協定を締結することとしています。

材の需要拡大を目的に、地域材利用促進協議会（仮称）の設立、地域材を使った木造住宅にふれる「地域材発見ツアー」や建築学科在籍の大学生等を対象とした森林環境教育に取り組みます。

共同宣言」が行われました。この共同宣言を具体化するために、徳島県徳島市等において森づくり交流学習会や森づくり活動を地域の方や森林ボランティアと共同で行うなど、引き続き「四国の森づくり」に取り組みます。



森林整備協定締結候補地 いの町 (旧) 本川村

この森林整備協定の締結により、民有林と国有林が連携した路網の整備、間伐の実施など森林整備のより一層の推進が期待されます。

四月十一日、奥物部三嶺山系の稜線部で、ニホンジカの食害等により枯れたササ原を再生するために、獣害防止ネット等の設置作業を行いました。

各地の
たより

みんなの力で
三嶺の森の自然再生を
〈高知中部署〉



四月十一日、奥物部三嶺山系の稜線部で、ニホンジカの食害等により枯れたササ原を再生するために、獣害防止ネット等の設置作業を行いました。



この日は好天に恵まれ、絶好の行楽日和でしたが、作業に集中した参加者には三嶺の姿はあまり目には入らなかったのではと思われま

ト柵があり、ここでの植生の回復状況がはっきりと見てとれました。参加者は、ネット柵の効果を確認し、シカによる食害を少しでも防ごうと、とっても熱心に作業に取り組んで下さいました。

このネット柵の設置には、昨年の十一月にヘリコプターで麓から運び上げておいた資材を使いました。

現地の尾根筋の作業では日差しが強く、時折風も吹き抜ける中、みんなで声を掛け合っ

一組目は、白髪山の麓で、モミなどの樹木を守るために、一本一本の木にネットを巻きつける作業を行いました。

二組目は、片道二時間半ほどを登り、三嶺の頂上が真近に見える高知県と徳島県との稜線部のカヤハゲ地区と蕪生越地区で、ネットを使用した柵を設置しました。

この日は好天に恵まれ、絶好の行楽日和でしたが、作業に集中した参加者には三嶺の姿はあまり目には入らなかったのではと思われま

六月三日、白髪山の麓で、モミなどの樹木を守るために、一本一本の木にネットを巻きつける作業を行いました。

「今後も三嶺の森を守るための活動を続けていきたい」との感想が聞かれました。

四月十八日、四万十市西土佐黒尊山国有林にある黒尊親水公園内の歩道整備（環境保全型舗装）をボランティアにより実施しました。

この公園は四万十森林管理局が広く一般市民に癒しの場を提供するため整備したのですが、公衆トイレまでの間の

地域住民による公園整備
「黒尊親水公園歩道整備」
〈ふれあいセンター〉



歩道が未舗装であるため地域住民から車椅子などでのトイレが利用しやすいよう舗装を望む声がありました。
そこで、当ふれあいセンターでは、日頃から協働して黒尊川流域の環境保全や地域の振興に努めている「しまんと黒尊むら」に呼びかけ、歩道の舗装を行うことにしました。



注：「しまんと黒尊むら」地域住民組織で、黒尊川流域

め、交流や体験活動の拠点として、親水公園の活用が期待されます。
今後は、隣接する東屋を含め、観光客にも大変喜ばれます。」との声もありました。

当日は、「しまんと黒尊むら」のメンバーや黒尊森林官、地域住民、高知県、四万十市の職員ら二十三名がトイレ周辺及び幹線道路からトイレへの歩道整備（舗装約百三十メートル・幅員一、四メートル）に汗を流しました。なお、舗装資材については、(財)日本森林林業振興会高知支部のご協力を得ました。



四月二十四日、足摺宇和海国立公園内にある滑床溪谷で、恒例となっている松野町等が主催する滑床山開きの神事が行われました。
これに合わせて、遠足を兼ねて参加していた地元の松野南

滑床溪谷で森林教室
「滑床山開き」に合わせて
〈愛媛署・ふれあいセンター〉

の魅力ある自然環境を住民と行政が協働して保全することによって、そこで生活している住民が自然の恵みを楽しみ、持続可能な地域社会を構築することを目的として活動しています。

午後からは、パネルや模型を使って森林の働きについて体験学習をしました。水の土壌浸透実験では、児童が実際に上からジョロで水をまくと、裸山は水が土の上を一気に走り、模型の家を押し流してしまいました。森林のある山は、樹木や落

小学校の児童二一名（目黒緑の少年隊）を対象に、愛媛森林管理署と合同で森林教室を実施しました。
始めに、クイズ形式で木の名前を当てるネイチャーゲームを行いました。これは、昨年、同地で学習した樹木の復習を兼ねて実施したもので、児童達は、分かりやすいヒントを出そうと一生懸命考えたり、また、見事名前を当てると皆んなで大喜びをしていました。



葉がクッションとなって土砂の流出を防ぎ、模型の家は無事でした。実験を通して、児童達は、森林は土砂の流出を防ぐ「緑のダム」として、大雨が降っても洪水が起こりにくい働きがあることが理解できたようです。

協働メンバーの

イベントに参画

「四万十楽舎」で木工教室

（ふれあいセンター）

四月二十五日、四万十市西土佐にある社団法人「四万十楽舎」で十周年記念イベントが開催され、記念式典の後、コンサートや和太鼓の演奏などで賑わいました。同楽舎は、四国森林管理局などが四万十川の支流、黒尊川流域の森林と清流の保全・再生などを通じて、地域の活性化に取り組んでいる「四万十くろそん会議」の協働メンバーで、森林環境教育も連携して実践しています。



当センターは、体験コーナーの木工教室を担当し、カブトムシや動物のストラップ作りを指導しました。始めは、子どもの作業を見守っていたお母さん方も、「大人も作っていいですか?」と参加、親子で



楽しそうに作製していました。今回の木工教室は、「四万十くろそん会議」の活動を進めるとともに、来場者に木材への関心を高めてもらう取組となりました。

堂ヶ森風景林で

木工教室

（ふれあいセンター）

子供の日の五月五日、風景林として保護され、アカガシなど貴重な天然林が残っている四万十市と四万十町の境に接する土佐堂ヶ森（標高八五七m）山頂で、毎年恒例の「堂ヶ森祭り」が、地域住民一〇〇名余りが参加して盛



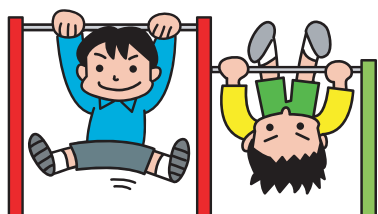
大に行われました。

祭りでは、神事後に餅投げや地元で有名な関六口さんによる漫談調バナナのたたき売り、また、ちびっ子相撲や高知県では珍しい女性による相撲など楽しい催しがたくさんありました。

当センターでは、堂ヶ森周辺を森林教室などのフィールドとして活用しており、毎年、安全祈願と併せて地域住民との交流を深めると共に、センターの活動をPRしています。

今回は、参加した子供たちに、サクラの端材でキーホルダーの作り方を指導したところ、参加者の中には、どうしても孫に作ってやりたいと熱望する人や自分のキーホル

ダーにしたいと言う大人の方々も混じり、子供達共々、出来上がった作品を観て満足そうな笑顔でした。堂ヶ森山頂での木工教室は、木立に囲まれての楽しい思い出と共に、心に残る有意義な一日となったことでしょう。





四国山の日

11月11日は四国山の日

四国山の日賞募集

平成16年11月14日の「四国の森づくりシンポジウム」において、徳島県、香川県、愛媛県及び高知県知事並びに四国森林管理局長が一堂に会し、「四国の森づくりに関する共同宣言」を行い、毎年11月11日を「四国山の日」と制定し、さまざまな取組みを4県と森林管理局が連携して推進しています。

この「四国山の日」の取組みの一環として、18年度「四国山の日賞」を創設し、共同宣言の趣旨に沿って四国の森づくり等の取組みを積極的に推進している団体等に対して表彰を行うこととしました。

自薦、他薦は問いませんので、ご応募お待ちしております。

● 部 門

- ① 多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進
- ② 木材の利用推進
- ③ 森林環境教育活動の推進

● 募集期間

平成21年4月15日から平成21年6月30日まで(当日消印有効)

● 応募方法

応募にあたって、詳細は下記ホームページでご確認下さい。
なお、各部門毎に、応募の様式を定めておりますので、お手数ですが、四国森林管理局ホームページからダウンロードして頂き、必要事項を記入の上、郵送にてご応募下さい。

※四国森林管理局ホームページは<http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

● 応募先

〒780-8528 高知市丸ノ内1-3-30

四国森林管理局 指導普及課内 四国山の日賞選考委員会 事務局

● 選考・発表

学識経験者等で構成する「四国山の日賞選考委員会」(平成21年8月28日)で選考を行います。

受賞者へは平成21年9月中に通知します。選外の通知はしません。

● 表 彰

平成21年10月31日に、徳島県において、実施する四国山の日関連行事において表彰します。 ※各部門毎に、1~数団体等を表彰予定です。

● その他

応募に係る書類は、返却しません。

また、個人情報については、選考の目的以外には使用しません。



問い合わせ先

四国森林管理局 指導普及課(088-821-2121)